

平成17年漁況通報(年)

平成18年2月7日
大阪府立水産試験場

巾着網

カタクチイワシが8・9月に豊漁であった(図1)。

コノシロは1月と6～10月に漁獲され、年間漁獲量は平年の8割であった(図2)。

船びき網(南部標本組合)

イカナゴ漁は3月のみで、平年の半分、昨年の3割であった(図3)。

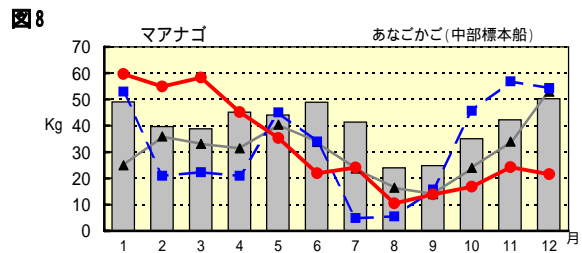
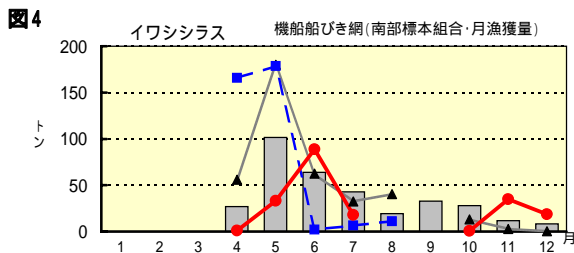
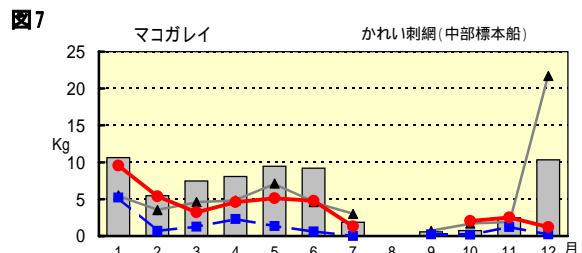
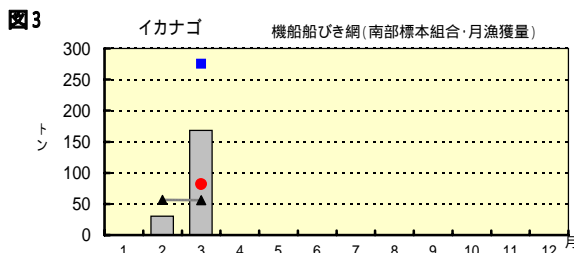
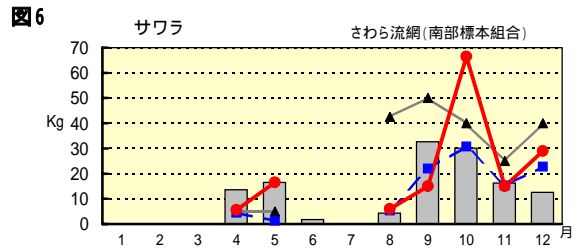
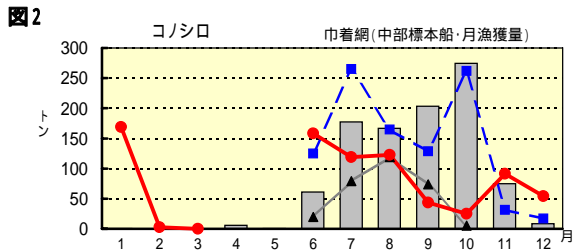
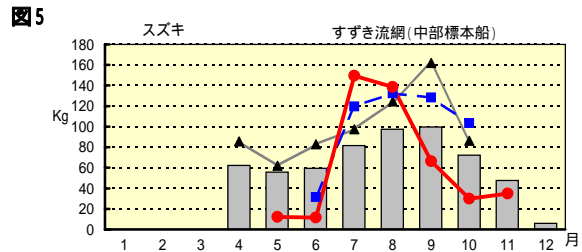
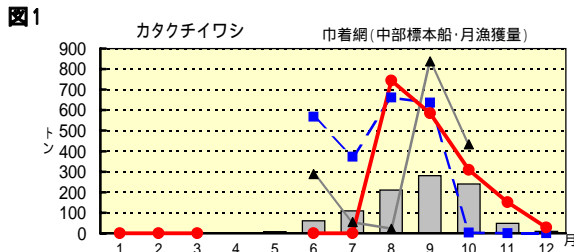
イワシシラスは、4～7月に春漁が行われ平年より少なめであったが、例年とは違い11・12月にまとまった漁獲があった(図4)。

すずき流網: 中部標本船は5～11月に漁が行われ、7・8月には平年を上回った(図5)。

さわら流網: 南部標本組合のサワラは、春漁は平年より少なかったが、秋漁では10月に多く平年を越えた(図6)。

かれい刺網: 中部標本船のマコガレイは、1年を通じて、昨年よりは多いものの不漁であった(図7)。

あなご籠: 中部標本船の漁獲量は1～3月は平年を越えていたが、その後減少し平年の半分程度となった(図8)。



■ : 平年値(縦棒) ● : 平成17年 ■ : 平成16年 ▲ : 平成15年

図1・2は標本船の月漁獲量(t)、図3・4は標本組合の月漁獲量(t)、それ以外は1日1隻当たりの漁獲量(kg)を示す。

タチウオひきなわ釣り：中部標本組合は8～12月に漁が行われたが、平年をやや下回った(図9)。

小型底びき網

石げた網(中部標本組合)

マコガレイは、昨年よりやや多いものの、周年きわめて不漁であった(図10)。

メイタガレイは2～4月は好漁であったが、その後減少し、平年を下回った(図11)。

シタ類は11月まではほぼ平年並みであったが、12月に急増した(図12)。

ネズボガ類(ガッチョ)は、周年、不漁であった(図13)。

マアナゴは6・7月に豊漁であった(図14)。

ガザミ(ワタリガニ)は、16年11月からずっと豊漁が継続した(図15)。

ヨシエビ(シラサエビ)は6～8月に多かったが、それ以降減少し、平年以下となった(図16)。

クマエビ(アジアカ)は、6月と10～12月に漁獲された(図17)。

小エビ類は3月を除いて平年を下回り、不漁であった(図18)。

図9

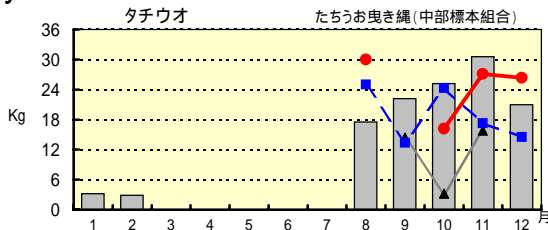


図14

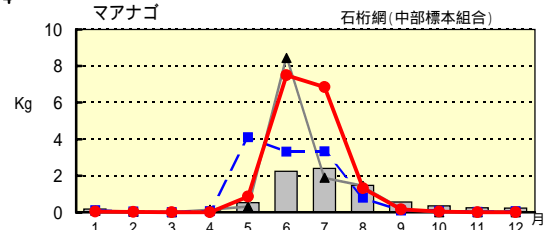


図10

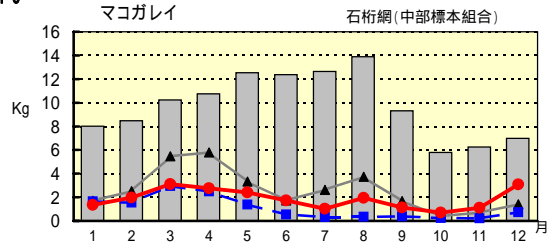


図15

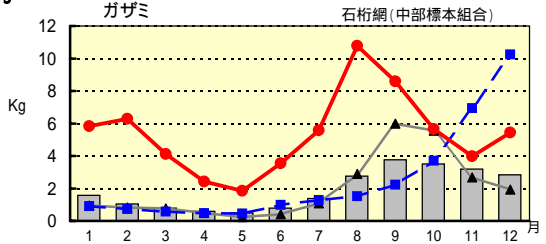


図11

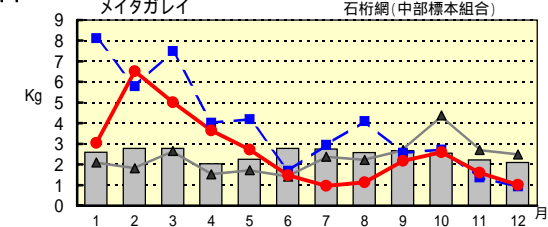


図16

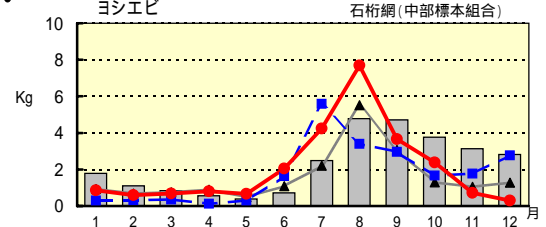


図12

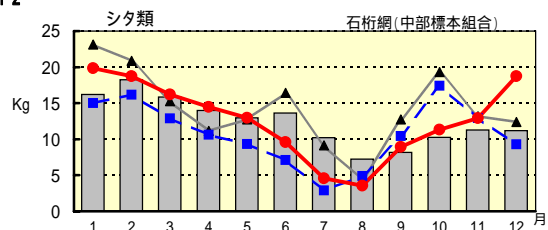


図17

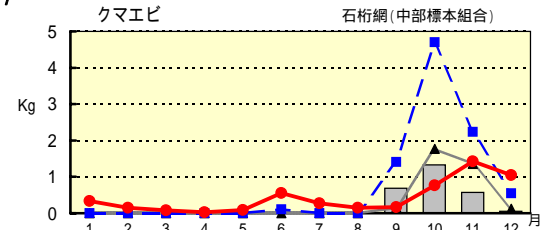


図13

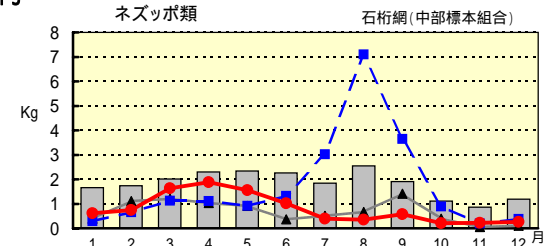
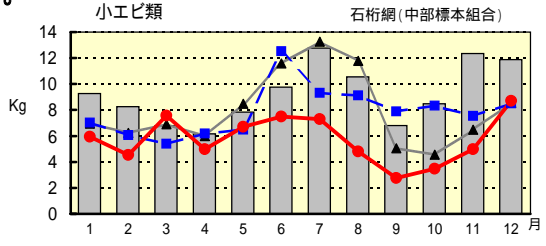


図18



■ : 平年値(縦棒) ● : 平成17年 -■- : 平成16年 ▲ : 平成15年

1日1隻当たりの漁獲量(kg)を示す。

シャコは年間を通じて平年の1～5割と不漁であった(図19)。
 マダコは7・8月は好漁であったが、それ以外は平年並みであった(図20)。
 コウイカ類は平年より多く、特に10月以降は豊漁であった(図21)。
 トリガイは多く、特に9・10月は豊漁であった(図22)。

板びき網

中部のアジ類は1・2月は少なかったが、それ以降は平年並みに推移した(図23)。
 中部のスズキは、年間を通して見れば好漁であった(図24)。
 中部のタチウオは周年、好漁であった(図25)。
 中部のマナガツオは2月と10月に好漁であった(図26)。
 中部のイボダイ(ウボゼ、シズ)は7～9月に多く、平年をやや上回っていた(図27)。
 中部のシログチ(クチ)は平年よりやや多めに推移した(図28)。

図19

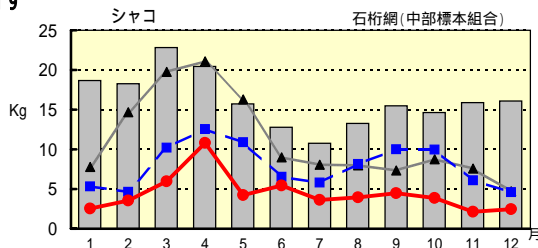


図24

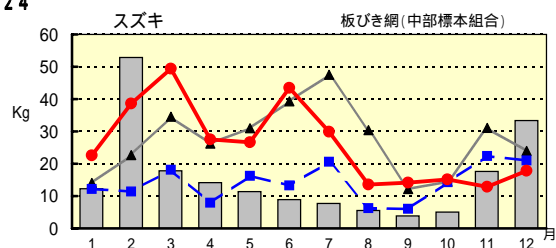


図20

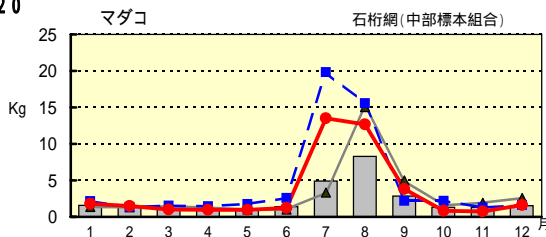


図25

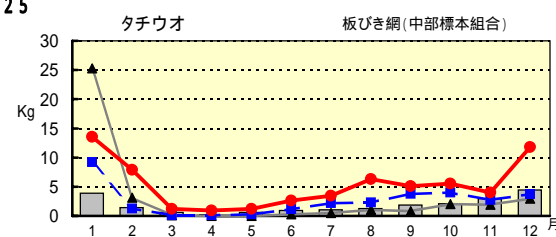


図21

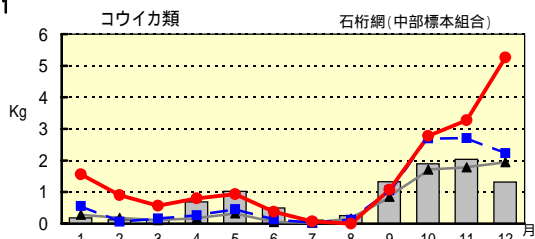


図26

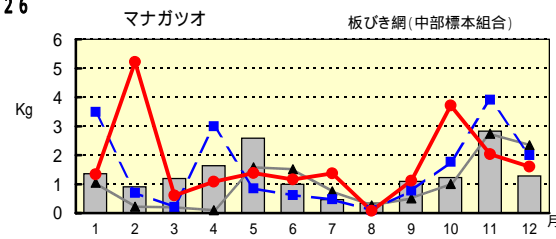


図22

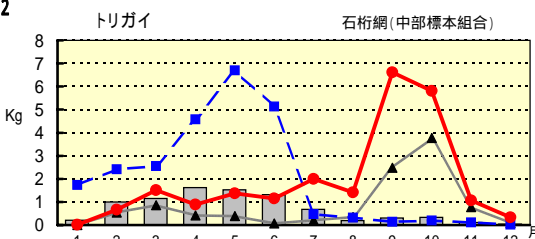


図27

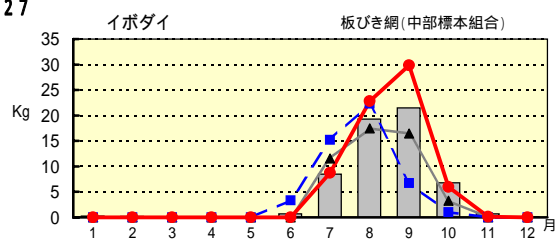


図23

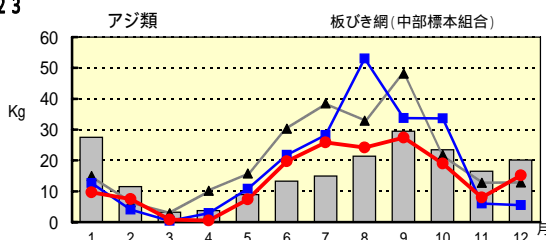
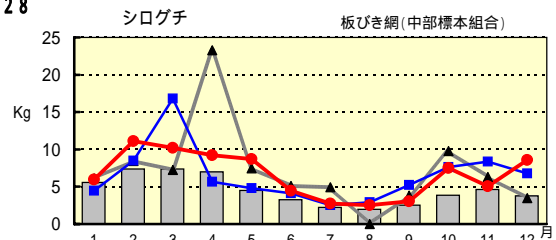


図28



■ : 平年値(縦棒) ● : 平成17年 ■■■ : 平成16年 ▲ : 平成15年

1日1隻当たりの漁獲量(kg)を示す。

中部のマダイは、平均するとほぼ平年並みであったが、特に4月に多かった(図29)。

中部のクロダイ(チヌ)は1~6月に多く、5月に豊漁であった(図30)。

南部のハモは豊漁で、特に8月に多かった(図31)。

中部のマアナゴは6・7月に比較的多かったが、平年の半分程度である(図32)。

中部のカワハギ類(ハゲ)は1月は多かったが、その後はほぼ平年並みに推移した(図33)。

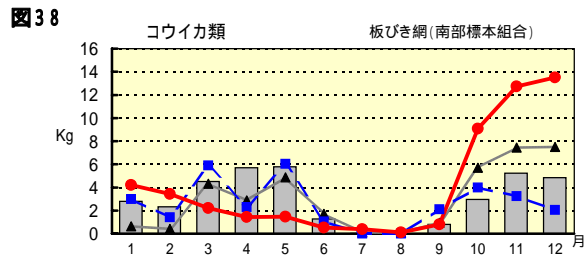
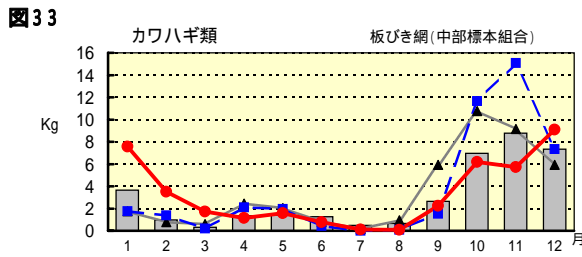
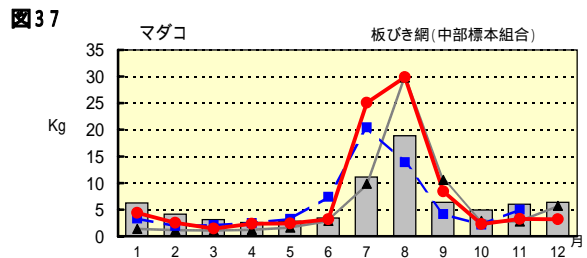
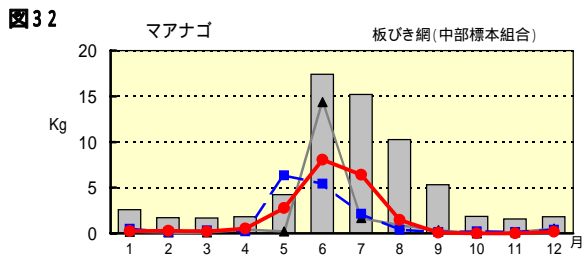
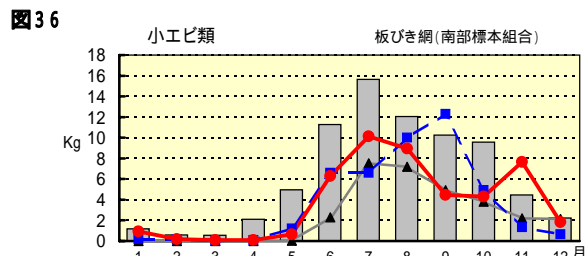
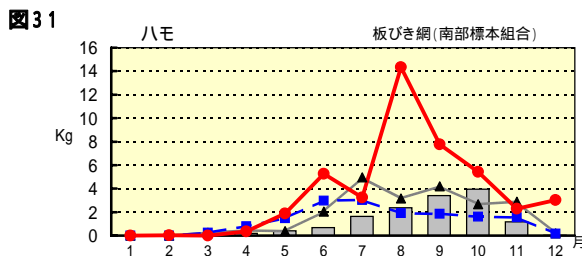
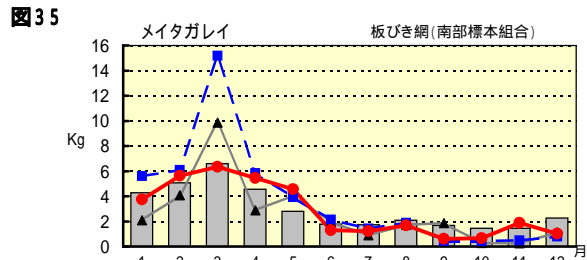
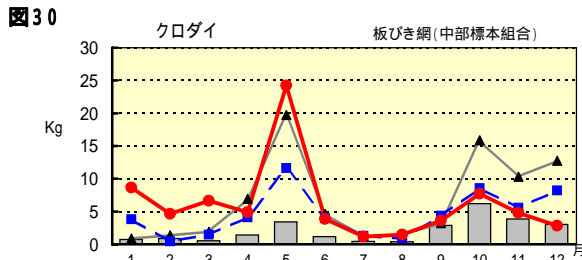
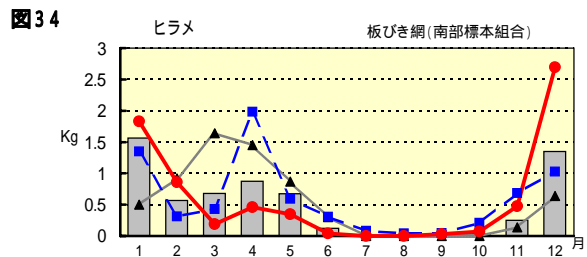
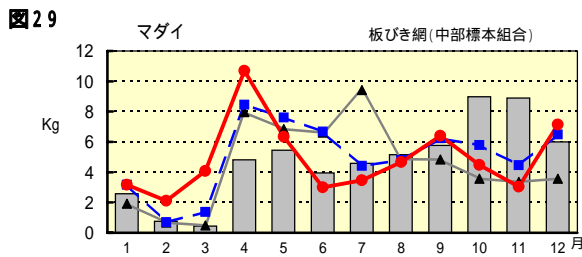
南部のヒラメは1月と12月に多かった(図34)。

南部のメイタガレイは平年並みに推移した(図35)。

南部の小エビ類は、11月を除き、平年の5~8割と不漁であった(図36)。

中部のマダコは7・8月は好漁で、それ以外はほぼ平年並みであった(図37)。

南部のコウイカ類は9月までは少なかったが、10月以降、豊漁となった(図38)。



: 平年値(縦棒)
 : 平成17年
 : 平成16年
 : 平成15年

1日1隻当たりの漁獲量(kg)を示す。